

帯広市男女共同参画情報誌

カスタネット

Vol.28 2014.10

第12回 女と男の一行詩・最優秀作品 / 「生徒会長女子なんだ!」驚かれて 驚いた

特集

男女共同参画に関する市民の意識は？

■団体紹介：帯広市婦人団体連絡協議会



反対

(どちらかといえば反対含む。)

50.7%

Q

平成25年度男女共同参画に関する意識調査より
夫は外で働き、妻は家庭を守るべき？



賛成

(どちらかといえば賛成含む。)

38.0%

前回(平成20年度)調査では反対50.5%、賛成41.7%で、性別による固定的な役割分担意識は緩やかではありますが、解消に向けた変化が見られます。

※「カスタネット」とは・・・2枚の丸い木が合わさり音が出る楽器から、女性と男性が共に歩むイメージを表現したものです。

男女共同参画に関する市民意識調査結果

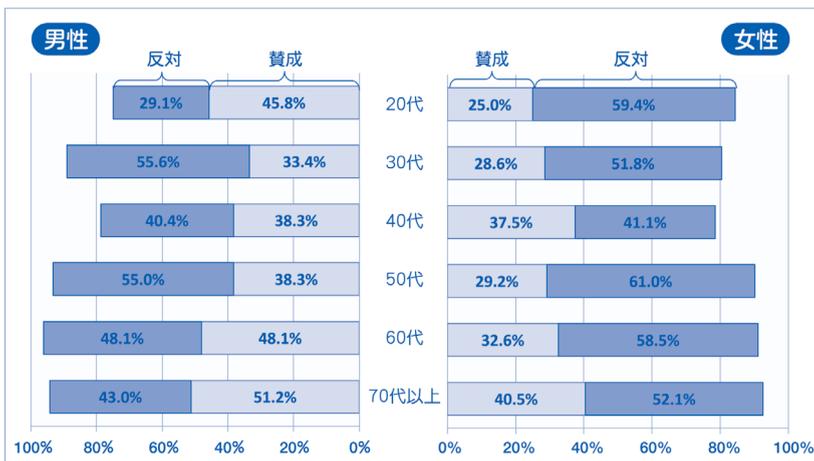
帯広市は、一人ひとりの人権が尊重され、男女が共に生きることできる「男女共同参画社会」の実現に向けて平成22年3月に第二次プランを策定し、男女平等意識の啓発や共に働きやすい環境づくりなどの取り組みを進めています。

平成20年度に行った調査に続き、25年度にも調査を行い、市民の皆さんの男女共同参画に関する意識や実態を把握しプランの推進に努めています。調査結果の一部を年代・性別で比較してみました。



- 調査対象 帯広市に住所を有する20歳以上の男女2,000人を無作為抽出
- 調査期間 平成26年1月31日～2月14日
- ▲有効回収数(率) 743件、37.4%

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方



「賛成」～『賛成』・『どちらかといえば賛成』
「反対」～『反対』・『どちらかといえば反対』

『夫は外で働き、妻は家庭を守るべき』
～性別による役割分担意識～

20歳代男性の「反対」が他の年代と比べると少なく、30歳代では男性の「反対」が女性の「反対」を上回っています。

全体的には、前回調査に比べると「賛成」が減少しており(前回41.7%→今回38%)、緩やかではありますが意識の変革を見ることが出来ます。

なお、国の調査では、「賛成」が増加しており(前回41.3%→今回51.6%)、これに比較すると帯広市はかなり低い数値になっています。

政治の場での男女比は?

女性議員/議員数 (%)	
帯広市議会	7 / 32 (21.9)
北海道議会	8 / 98 (0.8)
衆議院	39 / 480 (7.9)
参議院	39 / 242 (16.1)

※上記数値は市議会 (H26.5.16現在)、北海道議会 (H26.9.18現在)、衆議院・参議院 (H25.11現在)

各分野での男女の地位の平等感 (%)

	性別	今回調査			今回全体	前回全体
		男性優遇	女性優遇	平等	平等	平等
社会通念・慣習など	男	70.7	3.0	17.2	12.1	9.9
	女	74.9	3.2	8.1		
政治の場	男	62.1	2.1	23.2	15.2	14.5
	女	73.1	0.4	8.8		
職場	男	65.7	6.9	19.3	16.7	12.2
	女	67.7	4.6	14.7		
家庭生活	男	45.8	9.3	39.2	33.8	23.8
	女	53.5	9.5	29.6		
学校教育の場	男	11.7	4.8	65.7	57.9	55.3
	女	20.8	4.1	51.8		

「男性優遇」～「男性が非常に優遇」、「どちらかといえば男性」の計
「女性優遇」～「女性が非常に優遇」、「どちらかといえば女性」の計

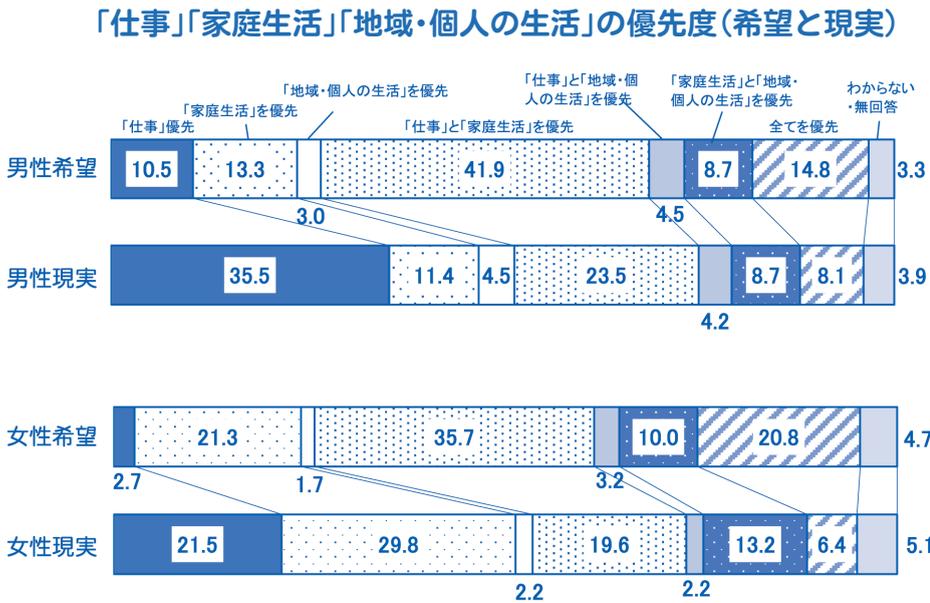
『各分野での男女の地位の平等感について』

男女共に男性が優遇されていると感じており、平等感はずべての分野で女性が低くなっています。法の下では男女平等ですが日常生活の中ではまだまだ男性優遇の分野が多くみられます。

しかし、前回調査と比べるとすべての分野で平等と感じる人の割合が増加しています。

『仕事・家庭生活等の優先度』 希望と現実

希望としては男女共に「仕事と家庭生活をともに優先」が最も多い（男性41.9%、女性35.7%）ですが、現実の優先度では、男性は「仕事優先」（35.5%）、女性は「家庭を優先」（29.8%）がそれぞれ最も多い結果となっています。現実には「仕事と家庭生活等」の両立は難しい状況にあると思われます。



女性が職業を持つことについて

区分	子どもができたから職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	結婚するまでは、職業をもつ方がよい	女性は職業をもたない方がよい
全体	41.0	33.6	6.2	3.5	0.3
男性	43.4	34.6	5.1	3.3	0.6
女性	39.1	33.0	7.1	3.7	0.0

男女共に「子どもができたら職業をやめ、子どもが大きくなったら再び職業を持つ方がよい」が最も多く（男性43.4%、女性39.1%）、次いで「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」（男性34.6%、女性33.3%）となっています。特に60歳代男性の40%以上がそう答えています。また、過去からの調査結果の推移をみますと「子供ができて、ずっと職業を続ける方がよい」という考え方が増加傾向にあります。

『女性が職業を持つこと』 に関する考え方について

「おびひろ男女共同参画プラン」

男女共同参画社会を推進するに当たって、男女共同参画社会基本法で市に計画を定めることを努力義務としています。

帯広市が平成22年に策定した第二次となるプランの目標とする社会は「男女の人権を尊重する社会」「政策・方針決定過程などへ共同参画できる社会」「仕事と家庭・地域生活が両立できる社会」です。

帯広市では、この市民意識調査結果を活用して、今後のプランの推進に活かしていきます。



岡庭義行氏プロフィール

1967年生まれ。帯広大谷短期大学副学長。専門は文化人類学。帯広市、音更町、中札内村等で男女共同参画推進計画の策定に携わる。現在、帯広市男女共同参画推進市民会議会長。

「おびひろ男女共同参画プラン」の割合の差についても注目すべきだと思います。男性については、『賛成』が最も多い世代が60歳代（16.5%）、次いで20歳代（12.5%）となっています。『賛成』と『反対』の割合の差についても注目すべきだと思います。男女別にみると男性は30歳代、女性は20歳代で最も差が出ています。60歳代に関しては男女差が顕著に出ています。このような傾向や二極化については、その背景や理由を今後しっかりと考察していく必要があると思います。そのことが、各分野での男女の地位の平等感の改善にもきっと役立つと思っています。

〈市民意識調査結果について〉

帯広大谷短期大学副学長 岡庭義行 教授にお聞きしました。

今回の調査結果は、性別だけでなく年齢層による違いにも注目していく必要があると思います。例えば「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」の項目について、この質問に『賛成』・『どちらかといえば賛成』と最も多く回答した世代は70歳以上（45.1%）でしたが、『賛成』だけで最も多い世代は20歳代（12.5%）でした。男女別で見ると、女性の20歳代は『賛成』・『どちらかといえば賛成』の割合が他の世代に比べて最も低い一方で、実は『賛成』だけを見ると高い割合（12.5%）を示しています。男性については、『賛成』が最も多い世代が60歳代（16.5%）、次いで20歳代（12.5%）となっています。『賛成』と『反対』の割合の差についても注目すべきだと思います。男女別にみると男性は30歳代、女性は20歳代で最も差が出ています。60歳代に関しては男女差が顕著に出ています。このような傾向や二極化については、その背景や理由を今後しっかりと考察していく必要があると思います。そのことが、各分野での男女の地位の平等感の改善にもきっと役立つと思っています。

平成26年度に
帯広市が実施
した男女共同
参画事業の
ご紹介

●デートDV予防講座

講師：NPOピーチハウス
志堅原郁子 氏
6/3 (帯広工業高等学校)
8/26 (帯広三条高等学校)



講座を通して
受講者自らが
「考え」、「気づき」
行動を
「選択」

●帯広市男女共同参画講座

(市民大学・道民カレッジ連携講座)

6/27 「家族の絆、社会の絆
～いま、なぜ男女共同参画なのか?～」
帯広大谷短期大学副学長 岡庭義行 教授
男女共同参画の基礎について学びました

9/30 「あなたがもっと輝くために
～キャリアデザインで豊かな人生を～」
㈱グロッシー代表取締役 北村 貴 氏

これからの社会モデルは
共感、しなやか、ゆるやか



●男女共同参画週間 (6/23～6/29)
パネル展

6/23～6/27 (帯広市役所市民ホール)
6/28～6/29 (とかちプラザ女性情報コーナー)



ご参加いただいた事業は
ありましたか? 今後もさま
ざまな講座等を予定して
おります。
広報、チラシ、ホーム
ページ等を通じてご案内し
ていきますのでぜひご参加
ください。

帯広市婦人団体連絡協議会

女性自らエンパワーメント(人生を主体的に
生きる力)をつけ、社会活動への参画を進め、
活動している団体を紹介します。

中田会長から「男女共同参画社会を目指して、人
人を認め合い、仕
事・出産・子育てが
自由に選べる社会を
めざすには、まだま
だ遠くにあります。地
域・職場・家庭等
身近なところから実
践していくことが大
事で、次世代を担う
子どもたちに少な
くとも住みよい社会に
なっていきたい」と
の言葉がありました。

今年7月に開催された北海道女性大会では、「今、十
勝から伝えたいこと」をテーマに「十勝における食と
農の取り組み」「超少子高齢社会と男女平等参画」の
講演が行われ、TPP問題もあり、盛況のうちに終わ
りました。

会の活動方針は、心豊かに、安心して住める地域社
会、防災・減災に目を向け各世代の人々と課題解決の
ために、学習と実践を重ねていくことです。

また、身近な活動では、帯広市の三大祭り(平原ま
つり、菊まつり、氷まつり)、プラザまつり等に参加協
力しています。

帯広市婦人団体連絡協議会は、昭和31年に創立、昭
和55年3月に再編成し、婦人の地位向上とふれあいの
あるまちづくりに参加することなどを目的としている
団体です。平成26年7月に主管団体として「北海道女
性大会」を開催した中田和子会長にお話しを伺いまし
た。



皆様のご意見、ご感想をお待ちしています。

帯広市役所 男女共同参画推進課
〒080-8670 帯広市西5条南7丁目1番地
電話：0155-65-4134 F A X：0155-23-0171
電子メール danjyo@city.obihiro.hokkaido.jp

平成26年10月発行

- 発行：帯広市 男女共同参画推進課
- 企画・編集：帯広市男女共同参画推進員
清水マチ子・小野寺和子・池田 淳一
伊藤 容子・遠藤 妙子